



前田利夫

動物としてのヒトは、およそ600万年前に、チンパンジーとの共通祖先から分岐して進化してきました。現在、ヒトは70億人が地球上のあらゆる場所で、多様な文化的生活をしています。他方、600万年前に「兄弟」であったチンパンジーは、アフリカの限られた森のなかで、自然環境に依拠した生活を送っています。

「サル」から「人間」へ、私たちはいかにして進化してきたかが、本書のテーマです。

進化の段階は、大きく三つに分けて考察されています。第一段階は、「サルからヒトへ」です。

サルとヒトを区別するのは、四足歩行か二足歩行かです。440万年前に生きていたラミダス猿人は、脳の大きさはチンパンジー並みでしたが、歩き方はチンパンジーとは大きく違っていました。化

エンゲルスと現代進化論の響き合い

石の詳細な分析結果は、樹上生活から地上生活へ移行したことをはっきり示していました。

第二段階は、「脳の進化」です。約190万年前に出現したホモ・エレクトスはチンパンジーの脳（約450cc）の約2倍、現代人は約3倍の大きさの脳をもっています。遺伝子の変異で咀嚼筋が減少したことが「脳の大きさを相乗的に増やす方向に有利な力を与えた可能性」を強調しています。

大きな脳をもつようになった人類は言語を駆使し、文化をもつようになりました。第三段階の「ヒトから人間への進化」です。

著者は、エンゲルスの「猿が人間になるについての労働の役割」を引用し、「現代の人類進化の学説の推論の基盤は、おおむねこのエンゲルスの推論に即しているようにみえます」と記述。人間は、自ら作り出した「文化」のなかで「進化」してきたということを、多くの研究結果をもとに論証しようとしています。

サイエンスライター

(新曜社・2600円)